

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 持続可能な財政運営	② 施策番号	2201
③ まちづくりの方向〔政策（章）〕	6 みんなでまちづくりに取り組むまち		
④ 基本施策〔施策大（節）〕	3 将来にわたって安定した行政サービスが提供できるよう、計画的で健全な財政運営をおこなうまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 財政運営の強化		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総務部	財政課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	一般会計及び各特別会計
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	限られた財源を効果的に配分し、継続して行政サービスを提供できるよう、長期的視点にたった計画的な財政運営を目指す。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	国の構造改革の推進に伴い、地方自治体の権限と責任が増加しているが、その財源措置は十分と言えない。また、人口減少による税収減や少子高齢化等による社会保障関係経費等の増加、施設の老朽化による更新・改修費用など、財政状況が厳しくなる中で、これまで以上に歳出の効率的な執行が必要である。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
① 実質収支	計算式：歳入決算額－歳出決算額－翌年度繰越財源	百万円	財政運営の良否を判断する代表的な指標であるため。
② 実質公債費比率	計算式： $\frac{（元利償還金及び準元利償還金充当一般財源（交付税算入額を除く））}{（標準財政規模）}$ の3カ年平均	%	
③	計算式：		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 実質収支		百万円	目標値	0	0	0	0	0	
			実績値	10	6	207	—	—	
			達成率						
② 実質公債費比率		%	目標値	18.0	18.0	18.0	12.0	12.0	地方債の許可基準の18%をクリアし、H29年度の実績値を目標とする
			実績値	12.0	11.2	*	—	—	
			達成率	66.7%	62.2%				
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

* 実績値が出次第、再度提出します。

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費（千円）			事務事業評価結果			重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性		
1	財政運営事務事業	実質収支	百万円	6	207	0	34,096	35,073	35,103	B	イ	b	◎
2	市債管理事業	市債残高（普通会計ベース）	百万円	29,450	28,971	0	2,889,741	3,777,232	2,694,372	A	ア		○
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	2						2,923,837	3,812,305	2,729,475				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	長期的視点に立ち、計画的に財政運営を行うことにより、財政負担を将来に先送りすることなく、持続可能な財政運営が可能となる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	実質収支からは、財政状況の良否(黒字・赤字)、実質公債費からは、資金繰りの程度が判断できる。実質公債費比率が高くなれば、歳出に占める償還額の負担が大きいことが判断できる。地方債許可基準である18%を大きくクリアし、新たにH29実績値を元に12.0%を目標値とする。下落傾向にあるが、償還額の負担は他団体に比べ、高い状況にある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	内部管理事務であるが、市民サービスに与える影響が大きいいため、適切な財政運営及び市債の適正な発行が求められる。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	職員一人ひとりが、市の財政状況を把握し、取り組むべき施策ではあるが、財政課の課員すべてが財政状況を十分認識し、業務に取り組んでおり、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	健全で持続可能な財政運営を進めるためには、財政運営事務事業(予算編成、予算執行等)において、スクラップアンドビルドを進め、歳出を効率的に配分するとともに、財源の確保が必要。 市債現在高をコントロールすることは重要だが、本市の財政状況、また借入金金利が低下していることから、一時的に市債の発行増となっても、基金残高、黒字決算を維持することの方が重要。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	令和元年度普通会計の実質収支は、約2億700万円となり10年連続の黒字となった。基金の取り崩しは、約2億2,000万円、積立額は約8億円となり、残高は増加した。しかし、依然として、財政構造的には良い状態とは言えないため、主要プロジェクトの進め方及び市単独施策の是非が今後の財政状況に影響を与えるため、より精緻な事業計画を策定する必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	第6次行財政改革実施計画の見直しにあたり、計画内容に応じた予算編成手法の構築を目指し、歳入の確保と歳出の適正化を図る。新規経費などの財源不足額については、スクラップアンドビルドを基本とし、廃止、縮小等事業の選別やシーリング等で対応していく仕組みが必要。予算編成準備の早期着手を財政課の最優先課題とし、取り組む。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	より精緻な財政収支見通しを作成し、第6次行財政改革実施計画見直し案に反映させ、将来の財政負担への対応を図る。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	単年度収支の黒字をめざし、事業のスクラップを推進し、また、新規事業についてはサンセット方式を採用することにより、見直し時期を設定することにより、予算規模の適正化を図り、健全な財政運営に努める。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	施策指標である実質収支、実質公債費比率ともに目標値を達成しており、適切に取組が進められている。 安定した行政サービスが計画的かつ継続して実施されるよう、総合計画や実施計画を踏まえた財政運営を引き続き進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある